

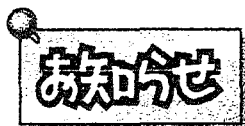
大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124



大学図書館問題研究会近畿4支部新春合同例会のご案内

21世紀における書店と 図書館のあり方を考える

日 時：2000年1月22日(土) 14:00～17:00 (13:30受付)

会 場：京都私学会館2階会議室(205)

新たに「大図研京都支部のホームページ」を立ち上げることになりました。

いよいよ新たにわが京都支部のホームページを立ち上げることになりました。ホームページは、大図研京都支部のみなさんの協力により身近で役立つものにしていきたいと考えています。ホームページは立ち上げたら完了ではなく、出発点です。

会員のみなさん自身のホームページのつもりで、みんなで知恵と力を合わせて図書館関係者に大いに役立つページ、大いに愛されるページとして成長させることが大切です。

従って、会内外の方の意見や希望も取り上げて、いい企画作りに努力したいと思いますので、こんなことを取り上げたらとか、こんな情報が欲しい等、大いに管理者の方に申し出て下さい。新しいホームページのURLは、1月号に掲載いたします。ホームページからの投稿をお願いいたします。

また、京都支部ホームページへのリンクについて、みなさんの要望をお聞かせ下さい。

会員を増やそう!

京都支部会員の現勢は、支部委員会報告の通りですが、来年度この京都で全国大会が開かれます。これを機に、

もう一回り大きな支部に成長させようではありませんか!

仲間が増えると言うことは、素晴らしいことだと思いませんか!

目

次

大図研近畿4支部新春合同例会のご案内	1頁
京都支部ホームページ立ち上げ	1頁
大図研近畿4支部新春合同例会詳細	2頁
京都支部第1回例会レジメ	3頁
京都支部第1回例会報告・感想	5頁
第4回支部委員会報告	6頁
数珠つなぎ(第45回)	8頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付(kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

大学図書館問題研究会近畿4支部合同例会のご案内

「21世紀における書店と図書館のあり方を考える」

1990年代初頭のバブル経済の崩壊に端を発する現在の不況のなかで、出版・書店業界も同様に不況に見舞われています。郊外型書店の出店ラッシュと商店街の書店の廃業。出版点数の増加と書店の大型化による出版・書店バブル崩壊の危機。大量生産と大量消費の取次の委託配本システムの限界。このような書店をとりまく状況と図書館はもちろん無関係ではありません。そこで、現在、積極的な出店で注目を集めているジュンク堂書店の南浦邦仁氏をお迎えし、忌憚のない意見を交換したいと思いますので、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

日 時：2000年1月22日(土) 14:00～17:00 (13:30受付)

会 場：京都私学会館2階会議室(205)

〒600-8424 京都市下京区室町通高辻上ル山王町561

TEL 075-344-6201 (代) FAX 075-344-6220

*会場への地図は次のURL参照。http://www.kyt-shigakukaikan.or.jp/access.html

交通案内：地下鉄四条駅6番出口より

徒歩5分

阪急烏丸駅26番出口より

徒歩6分

*駐車場はございませんので一般の交通機関をご利用下さい。

参加費：500円

主催：大学図書館問題研究会京都支部
プログラム：

14:00～15:15 講演

ジュンク堂京都店 店長：南浦邦仁氏

15:15～15:30 休憩

15:30～17:00 質疑応答

懇親会 時間：17:30～19:30

会場：京都私学会館レストラン

「スターマインド」

会費：4000円

申込方法：はがき、電話、FAXまたはメール

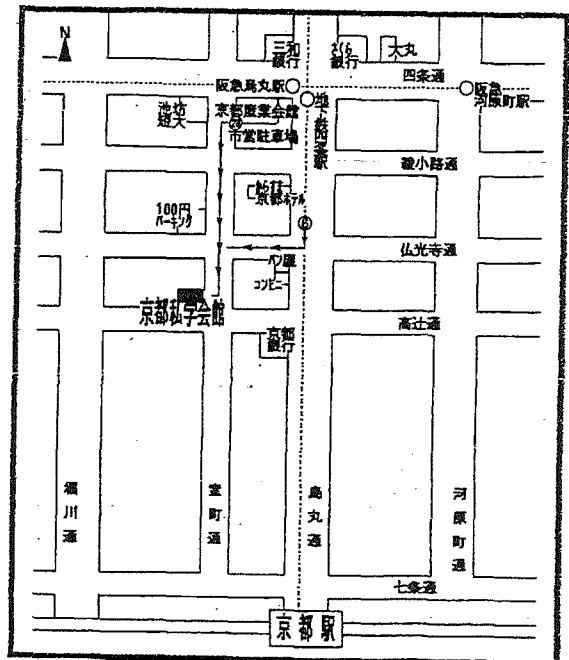
申込み先：京都学園大学図書館 大館和郎 宛

〒京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1

TEL：0771-29-2292 FAX：0771-29-2299

E-mail：odate@kyotogakuen.ac.jp

(懇親会参加の方は1月20日迄にご連絡下さい。)





大学における図書館の自由について

講師 立命館大学 若井 勉

1. はじめに

1) 図書館の自由の系譜

アメリカにおける図書館の知的自由 (1939年 ALA) (資料1-略)

日本における図書館の自由 (1954年、1979年改訂)

『図書館の自由に関する宣言』(4項目) (資料2-略)

『図書館員の倫理綱領』(12項目) (資料3-略) この2つは車の両輪
IFLA/FAIFE

「図書館と知的自由に関する声明」(1999年) 世界的な動きの中での今日的役割

2) 大学の自治と図書館の自由

日本国憲法：主権在民一言論・出版の自由、思想信条の自由、学問の自由

大学自治は社会から負託されたもの一単なる防波堤ではない。

社会的ネットワーク 平和利用の三原則

国立学校設置法改定

3) 今日の社会状況と図書館の自由

情報化(NW)と国際化の進展 各国の事情、文化的相異の露出と矛盾の噴出

社会的動静 通信傍受法(盗聴法)、住民基本台帳法の改定、 基本的人権

市民的自由の文化的広がり

美術館(NY美術館、富山県立)

博物館の倫理規定(ICCOM) 図書館との関連性

図書館法の改定 司書職館長の役割、専門職の役割の否定?

2. 図書館の自由をめぐる最近の事例—事例の特徴と問題点— (資料5-略)

1) 人権侵害に関するもの

2) 少年法に抵触するもの(第62条)

3) 青少年保護条例に関するもの(自己規制の収集方針、取扱い内規等)

4) 施設利用に関するもの(映画「南京1937」上映)

5) その他(警察の動き 捜査関係事項紹介書、捜査令状への対応)

3. 大学図書館における事例と課題

(1) 「差別的記載図書」をめぐる事例

法政大学：『現代用語の基礎知識』(1978)、島根大学：『日本の特殊部落』(1979)

大分大学：差別図書問題

大学・図書館が『宣言』にもとづき対応し、図書館の自由への侵害を防ぐ。

労働組合、図書館が積極的役割を果たす。 館長、専門職の役割が大

私大連盟：『大学時報』回収問題(1982)、東大出版会『UP』回収問題(1982)

圧力団体に屈服し、回収に応じる。 出版社が屈服し、追従。

現場での論議なく、管理職が処理。(「紛らわしいものに関わらない」姿勢。

(2) 『文芸春秋』、『新潮45』の対応 幅のある対応、そのまま扱いと一部利用制限

(3) 大学図書館、博物館の積極的役割

早稲田、立命館、メリーランド大学の協力によるブラング文庫展示会の開催。

G H Q 占領期の検閲、発禁本、資料の公開。(早稲田大学、立命館大学)

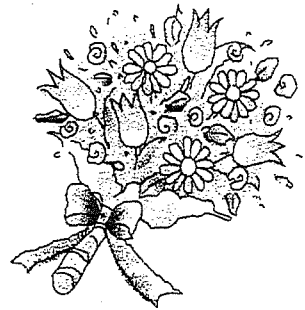
4. あなたならどう考えますか

1) いくつかの事例から—1999年の事例— (資料6)

2) あなたの大学ではどんなことが？

京都の大学での事例

日常業務での疑問点など



5. わたしたちに求められているもの

1) 基本姿勢—研修、日常的に検証(OJT)

2) 社会的状況に関心を持ち、事例による教訓の共有と理論化

3) 日常業務のなかでのチェックポイント

(1) 資料収集の自由

・選書方針の公表

・リクエストの扱い

・寄贈図書への扱い

・内規と運営体制

(2) 資料提供の自由

・資料制限の原則 最小限、時限を定め、見直し 現場を含めた実態にもとづく論議、
利用者の意見、アフターケア

・施設提供

(3) 利用者の秘密を守る

窓口対応 文献検索;N_0Dx@▲譽俊・譽鷗后コ發暴佛爾僚鐘巫☆・

個人情報資料の取扱いと管理の原則

・プライバシー侵害につながるシステムを作らない。(コンピュータ導入の原則)

・プライバシー侵害につながる資料を作らない。

・プライバシー侵害につながる資料%xD 如聖燭和・笋・暴菰・垢襦・・

・プライバシー侵害につながる資料・データの管理はシステムかする。

(4) すべての検閲に反対する

・職場に基本的人権を守る基盤の確立(自由を守る風土)

「自らの権利を守れずして他人の権利は守れない。」

・図書館の自由を守る社会的なネットワークの形成

(5) その他配慮すべき事項

・督促業務、図書館の落とし物や問い合わせに対する対応、相互利用、連絡揭示の方法等々

6. おわりに

1) 図書館の社会的役割、学術文化の継承や機能に対する自覚にもとづく基本姿勢の確立とそれにもとづく組織的・民主的運営による対応をする。

2) 図書館員、利用者、管理者との連携による対応する。

3) 一定期間を得て、再評価し、教訓を蓄積する。

以上

大図研京都支部第1回例会報告

11月27日(土)、日本イタリア京都会館において、1999年度大図研京都支部第1回例会「大学図書館と図書館の自由」が14:00より開催されました。当日の参加者は9名となり、少なかつたのですが、討議そのものは活発におこなわれました。

まず日図協評議員として「図書館の自由」に関わってこられた立命館大学の若井勉氏に報告していただきました。最初に、図書館の自由の系譜について、アメリカ図書館協会の「図書館の権利宣言」(1939年)に触れた後、日本図書館協会の「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」について解説されました。これらは図書館員の自律的規範として制定され、法的効力はないものの、近年、社会的な認知がなされつつあり、今日の社会状況と図書館の自由を考える際の羅針盤となっています。

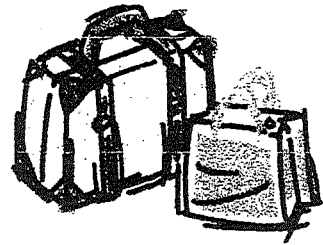
次に図書館の自由をめぐる最近の事例が報告された後、これらの事例を教訓とするとともに理論的整理をする必要が述べられました。

さらに日常業務のなかでのチェックポイントを

- (1) 資料収集の自由
- (2) 資料提供の自由
- (3) 利用者の秘密を守る
- (4) すべての検閲に反対する
- (5) その他(督促業務ほか)の5つの項目に分けて説明されました。

休憩をはさんだ後に、次のような点をめぐって活発な討議がされました。

- ・業者が送りつけてくる本と収書方針との関わり合い
- ・収書方針の公表について
- ・図書館システムにおける個人情報の取り扱い
- ・収書方針と知る自由との関係
- ・収書方針とリクエストの関係
- ・収書方針の活用の仕方
- ・予算枠による収書の制限
- ・学術研究からみた差別図書の利用の取り扱い
- ・性に関する情報の必要性和有害図書指定の関係
- ・個人研究室備え付け図書に関する情報の取り扱い



例会感想1 ―――大館和郎(京都学園大学図書館)

今回、例会に参加して配られた資料の中に、「あなたならどう考える」という問いかけのもとに、図書館の自由に関わる7つの事例が載せてありました。

現場の図書館員なら誰でも遭遇するかも知れない事例で、はたしてこういう場合に、即座に対応できるのか深く考えさせられました。図書館員の自立的規範として「図書館の自由に関する宣言」と「図書館員の倫理綱領」がありますが、問題が起こった時の的確に対応できなけれど、単なるお題目になってしまうのではないのでしょうか。

たとえば、警察からの捜査協力の一環としての利用者情報の提供依頼、有害図書の排除などに関して、原則を守ろうとする際、事なかれ主義や、個人的な好悪の感情などが強力な壁となることが予想されます。

若井氏はこういう問題を考える際の、チェックポイントをわかりやすく整理されていましたが、具体的な事例に対する突っ込んだ討議をするにはまだまだ時間が足りなかつたと思います。

職員問題にも関連するのですが、図書館の現場でアウトソーシングが進み、派遣職員が配置された場合、こういった問題にたいする対応が非常に難しくなるのではないのでしょうか。

(紙面の関係で、他の感想文は1月号に掲載します。ご期待を)

第4回京都支部委員会報告

1999年12月7日(火)同志社大学クローバーハウス(午後7時～9時)
出席:篠原、中嶋、呑海、田北、井上、大館、大綱(オブザーバー)

【報告事項】

1. 全国委員会 11月7日(日)

- 1) 委員長の欠員補充について
和光大学図書館の亀田氏(東京支部)が委員長に就任することが了承された。
- 2) 活動計画等について
 - ・30周年記念行事について
 - 1) 記念文集の発行 - 各支部より1名担当者を出す。
 - 2) 資料集の発行
 - 3) 写真集の発行 - 図書館の写真集
 - 4) 記念グッズ - 経費が必要なTシャツなどは注文による方式。
記念シール、オリジナル・ペーパー・ファイル
 - 5) イベント - 東京で記念講演、レセプション等の開催など。
 - ・研究活動
 - 1) オープンカレッジ - 第7, 8回分報告集を出版準備中
第9回: 2000年6月予定=電子ジャーナル関係?
 - 2) ライフサイクル=第9回: 2000年5月開催予定
 - *研究集会は、可能なら年2回開催予定(春=中国地区・秋=東京:30周年)
 - ・論文集
 - ・「大学の図書館」編集体制: 編集長=市村、委員=鈴木、高井、宮崎、
協力=佐治、柴内、長野
- 3) 第31回大会(京都)の準備状況について
 - ・大筋において京都支部の計画通り承認された。
 - ・宿泊についての問題点として(1)宿泊料金がやや高すぎる(2)宿泊人数見込みが多すぎるという点があげられた。
 - ・記念講演、研究発表については行う方向で検討する。

2. 全国大会(2000.8)第1回実行委員会 11月27日(土) 12:00 - 13:30

場所: 京大会館 出席者: 篠原、若井、堤(豪範)、大館
議題:

1. 日程について
 - ・日時: 2000年8月26日(土) - 28日(月)
2. 会場について
 - ・会場を立命館大学国際平和ミュージアムと末川会館とする。
 - ・会場予約については若井勉氏に一任する。
 - *注. 12/6 若井氏より連絡あり。全体会場、分科会(数未定)の会場(6)末川会館全宿泊室(最大25名)を確保出来た。また前日の事務局、大会実行委員会用の宿泊(和室10名まで会議・宿泊可能)も確保した。
3. 業者委託について
 - ・会場設営、宿泊等についてはすべて実行委員会で準備する。
4. 宿泊について
 - ・宿泊料金が高すぎるとの指摘があり、当初に予定していたホテルを見直す。
 - ・宿泊人数の見込み数が多いとの指摘があり、大会役員用の宿泊場所のみ確保し、一般参加会員には宿泊施設紹介にとどめる。
5. 記念講演について
 - ・講演を依頼する講師の候補者を次回実行委員会までにリストアップする。
6. 次回実行委員会・日時: 2000年1月22日(土) 12:00 - 13:30
場所: 京都私学会館

3. 京都支部第1回例会 11月27日(土) 会場: 日本イタリア京都館

テーマ: 大学における図書館の自由 講師: 若井勉氏(立命館大学)

参加者数: 9名

コメント: 「図書館の自由」をめぐる歴史的経緯を概観した後、図書館の自由をめぐる最近の事例が報告された。さらに日常業務のなかでのチェックポイントを説明された。質疑応答では、特に収書方針と「図書館の自由」をめぐる議論が集中した。

4. 会員情報 ・支部会員数 92名(前回から変動なし)
5. 財政情報 ・1999年度会費納入者 78名(納入率 85パーセント)

【審議事項】

1. 今年度の活動について
 - 1) 近畿4支部合同例会

「21世紀における書店と図書館のあり方を考える」

- ・日時：1月22日(土) 14:00～17:00 (13:30受付)
- ・会場：京都私学会館 2階会議室 205 (スクール形式で48名収容可能)
(下京区室町通高辻上ル山王町561)
- ・交通：阪急「烏丸」駅、地下鉄「四条」駅より徒歩5分
- ・講師：ジュンク堂京都店 店長 南浦邦仁氏
- ・参加費：500円
- ・プログラム

14:00～15:15 講演
15:15～15:30 休憩
15:30～17:00 質疑応答

- ・懇親会 時間：17:30～19:30 会費：4000円
会場：京都私学会館 レストラン「スターマインド」

・収支試算：

<収入>	会費 500円 × 30(人)	=	15,000円
	京都支部負担金		20,000円
	他支部(大阪、兵庫、奈良)負担金		20,300円

	収入合計		55,300円
<支出>	会議室利用料(13:00～17:00)		24,000円
	マイク(1本)		1,300円
	講師謝礼		30,000円

	支出合計		55,300円

- ・案内：「大学の図書館」12月号、支部報12月号 dtk-ML、yurikamome-ML
大阪、兵庫、奈良各支部事務局に案内を郵送

2) 第2回例会

- ・テーマ A案：全国の大学図書館ホームページの比較
B案：ネットワーク管理
- ・日時：3月ないしその前後
- ・会場：未定
- ・講師：立命館大学から

2. 支部報について

- 1) 12月号について 近畿4支部合同例会案内 / 11月例会感想 / 数珠つなぎ
(京大 堤美智子さん)
- 2) 1月号について 京大公開展示会記事(京大 澤居さん) / 数珠つなぎ
(京大 吉井さん)
- 3) 支部委員が各自1本正月中に書く

3. 支部報復刻版の発行について

- ・収録範囲：1号～150号
- ・スキヤナーでデータを取り込む
- ・1,000ページ近くの分量となることが予想されるため、冊子体にするに経費がかさむ。経費を下げるためCD-ROMの形態で発行する。

4. 京都支部ホームページについて ・プロバイダ：So-net(11月2日に入会)

- ・サービス内容 / ホームページ・サービス / メールリスト・サービス(利用料金必要)
 - ・経費 設定経費 4,000円
- | | | |
|----|-------------|--------|
| 内訳 | 入会金 | 2,000円 |
| | 月額基本料金 | 1,000円 |
| | メールリスト初期登録料 | 1,000円 |

維持費 2,000円/月

- ・運営 / ユーザーID及びパスワードの管理・ホームページの管理及び運用・MLの管理
担当：呑海、田北、大綱、大館
- ・管理者アドレスはプロバイダーとの連絡用に使用する。 担当：呑海
- ・メールリストの移設を2000年1月上旬とする。

5. 次回支部委員会予定 1月11日(火)

次回大会実行委員会 1月22日(土) 12:00～13:30(京都私学会館)

